

『時事直言』 No.1685 2024年7月25日

[HP] <http://chokugen.com/>

[FAX] 03-3956-1313

[mail] info@chokugen.com

[X(旧 twitter)] [t_masuda2019/](#)

[Youtube] 増田俊男チャンネル/

[instagram] [t_masuda2019/](#)



時事評論家 増田俊男

アメリカの大統領を決める「資本の意志」(増田の造語)

2016年の大統領選はヒラリー・クリントンが勝っていたのにトランプが勝った。

2020年のトランプとバイデンの大統領選はトランプが勝っていたのにバイデンが勝った。

いずれも不思議であるが、不思議なことには裏(真実)がある。

ヒラリーにトランプが勝ったのも、バイデンがトランプに勝ったのも、理由は「不正選挙」である点で共通している。

重要なことは、法の大原則「疑わしきは罰せず」で不正がまかり通ることである。

アメリカの大統領の暗殺は、リンカーンから始まって、ケネディ、レーガン(未遂)まで7人、そしてトランプは8人目。

犯人はすべて単独犯で黒幕がいるようではない。

7月13日のトランプ暗殺の容疑者はトーマス・マシュー・クルックスという20歳の男性。

ケネディの暗殺情報から何かを学んだようだが、黒幕はいないようだ。

事件後あの強気で元気なトランプの顔が冴えない。

暗殺未遂のおかげで大統領選に勝てる可能性が高くなったのに何故浮かぬ顔をしているのか。

トランプにとって、もし今回のトランプ暗殺未遂事件が諜報機関の綿密な計画が存在しているのではないかと思えるようなら、敵の弱みを掴んだようなものだから、もっと元気な顔になるはず。

ところがクルックスは殺し屋の仲間でもなければ過激派アクティビストでもない、どこにでもいる普通の20歳の男性である。

トランプの不安は、クルックスは何処にでもいて見分けがつかず全く防御出来ないことにある。

今回のトランプ暗殺未遂事件を見て、面白半分も含め、一体何人がトランプ暗殺を企てるだろうか。

今回耳のかすり傷で済んだことは幸運であったが、次はどうだろうか。

トランプの身代わりのような39歳のバンス副大統領候補が指名されたことで、「資本の意志」にとってトランプはなくてもよくなったことも忘れてはならない。

Scrap and build(資本主義の原則)に従って、アメリカをいったん潰して立て直さなくてはならない--これこそ資本の意志である。

アメリカを潰す者が資本の意志が決める次期大統領である。

大好評発売中！増田俊男の小冊子 Vol.141

『アメリカの宿命を知れば明日の日本と世界が分かる』

現在増田俊男の小冊子 Vol. 141 は大好評発売中です。

内容は、*人工国家アメリカは誰のモノか *自由の女神は何を語っているのか *「カネがモノを言う」のは何故か *累積債務35兆ドルのアメリカが財政破綻しない理由 *トランプとユダヤ資本の微妙な関係 *日本から陽が昇る等です。価格は、1冊4,800円(税・送料別)。

詳しいご案内、お申込みについてはマスダ U.S. リサーチジャパン株式会社 (FAX: 03-3956-1313、HP: <http://chokugen.com/>) まで。

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、
事前にマスダ U.S. リサーチジャパン株式会社 (FAX: 03-3956-1313) までお知らせ下さい。